

2020年4月13日

令和元年度第2回 海岸工学幹事会議事録

開催日時：令和2年4月7日（月）14:00～17:00

開催場所：ZOOM 会議

出席者：後藤委員長，佐々木副委員長，田島幹事長，森，内山，荒木，高橋，北野，桑江，有川(各小委員長)，鈴木，安田，越村，遠藤，小竹(各副小委員長)，渡部，渡辺，嶋原，原田，大田，加藤，高川，坪野，片山(委員兼幹事)，小林，柿沼，山中(委員)

議事録：嶋原

資料：

- ・ 令和元年度第2回海岸工学幹事会議事次第（資料1）
- ・ PowerPoint 資料（資料2）

■委員の就任および交代

- ・ 通常号小委員会の委員：鈴木崇之委員→榎田委員（2020年度より）に交代

■議事前報告および議事録の確認

- ・ 前回委員会の議事録を確認した。
- ・ 2019年度海岸工学講演会（鹿児島）について，参加者数が次の通りであったことが報告された：講演会記帳数 578，シンポジウム記帳数 191，特別講演記帳数 135，懇親会参加者数 131。
- ・ 2019年台風 Hagibis・Faxai 災害報告会（2019/12/16 17:00～20:00，東大）について，参加者数が 107 名であったことが報告された。

■海岸工学論文集第67巻特集号査読について（森編集小委員長）

- ・ 登録論文数：306 編（和文 281 編，英文 25 編（SCI-J6 編））
- ・ 査読者：119 名（幹事 26，編集委 29，その他 64）
- ・ 査読数：12.9 編/人
- ・ 2020年度の企画セッションは実施しない
- ・ 査読者割り当て：幹事会，論文集編集小委員会，その他の各グループから第2専門分野まで配慮
- ・ 通常号からの発表希望 1 編（該当する論文 2 編中）
- ・ 査読者の査読平均点 3.72（6 点満点）は例年とほぼ同様であった。
- ・ 査読結果は 18 点以上が 209 編，17 点が 36 編，16 点が 26 編，2 または 1 がついた論文が 10 編あった。
- ・ **【審議】** 採択案として
 - A) 17 点以上の全てと 16 点で全て 2 点以下がない+2 点が付いた論文から cec(論文編集小委員会幹部)で査読内容をチェックして適当なものを採択:265 編(採択率 86.6%)
 - B) 16 点以上を採択:271 編(採択率 89%)が論文編集小委員会から提案され，議論した結果 **A 案を採用することとした**。
- ・ 19 点，18 点論文にそれぞれ 1 名の査読者から 1 点のついた論文があったが，投稿要旨，および査読コメントを cec で確認した結果，ともに第2段階にて評価して頂くこととし，採択として進めることとした。
- ・ SCI ジャーナルの第一段審査において，3 ページ目に著者情報が記載されているミスが 3 編（全 6 編中）あり．次年度以降，著者に徹底させる。

- SCI ジャーナルからの投稿 6 編は全て 20 点以上だった(採択済み CEJ も含む). これらの投稿には, 本論文査読時に要旨に追加される 3 ページ目の論文情報に基づき当該ジャーナルへ掲載されていることを確認する. この確認により最終的な採択が決定される.
- ・ 要旨の内容が海岸工学と異なる. フォーマット違反という指摘が複数あり.
【審議】 概要提出期限後, 全員非会員の論文 1 編あり. 土木学会への入会をお願いをしたが, 取り下げますとの回答. 次年度以降, 非会員でも投稿料を上乗せで受け付けるなどが必要. →**土木学会会費相当額 (12000 円) を上乗せした投稿料を徴収することで非会員の投稿を認める制度を提案**され, 了承された.
- ・ Corresponding author を論文に明示することについて議論した→通常号で corresponding author を明示する方針なので, 通常号に合わせることにした.
- ・ 論文投稿数の減少についての対応について議論し, 以前の WG のメンバーを軸に, WG を立ち上げ, 現状把握の更新に加え, 今後の論文, 査読, 講演会のあり方を含めて議論することになった.

■第 67 回海岸工学講演会準備状況について(小林委員)

日程: 2020 年 11 月 11 日~13 日

会場: じゅうろくプラザ・岐阜大学サテライトキャンパス(いずれも岐阜駅前)

懇親会: 岐阜ワシントンホテルプラザ スカイルーム

- ・ 講演会会場はじゅうろくプラザに集約. 第 4, 第 5 会場が一回り小さいが, 後部を椅子のみのレイアウトとすることで十分な席数を確保する. 委員会の会場は 2 階, 4 階に配置.
- ・ 飲食が可能な部屋は 5 階のみなので, 昼食付きの委員会はサテライトキャンパスで実施.
- ・ 現地見学について: 11/10 実施. 名古屋港コース, 長良川河口堰コースを調整中.
- ・ 前日シンポジウムの企画の案について, 今後の沿岸域の整備・サステナビリティに関するテーマを検討中 (佐々木副委員長).
- ・ コロナウィルスの状況により講演会開催が中止になる場合を想定.
 - 会場費のキャンセル期限を次回委員会までに調べる. (キャンセル料が発生しないのが望ましい)
 - 中止に関する情報発信のタイミングを執行部で今後検討.
 - 投稿料の扱いを整理すべき.
 - オンラインでの実施可能性についても要検討. (例: 論文賞・奨励賞受賞者のみ発表). 全体をオンライン化するのは厳しいか?

■第 68 回海岸工学講演会準備状況について(原田委員)

後援: 国交省近畿地方整備局, 京都府, 京都市【予定】

日程: 2021 年 11 月 10 日 (水) ~12 日 (金)

会場: 京都テルサ (京都市南区)

懇親会会場: 未定 周辺のホテル

- ・ APAC LOC との共催. 海岸工学委員全体で対応.
- ・ APAC のレジストレーションの時間帯: 11 月 9 日午後 (13-17 時)
- ・ 会場フロアを以下の様に分ける. 3F: APAC, 2F: 海講. 1F: 開会式等に使用.
- ・ 委員会会場も確保.
- ・ 見学会は未定.

■第 56 回水工学に関する夏期研修会（Bコース）について（山中委員）

日程：2020 年 8 月 27 日，28 日．会場：高知商工会館

テーマ：「海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術」

第一日(8/27)

那須清吾（高知工科大学・教授）：気候変動の地域影響予測と適応政策の在り方(共通セッション)

佐藤慎司（高知工科大学・教授）：UAV を用いた海岸情報マッピング技術

福谷陽（関東学院大学・准教授）：確率論的津波ハザード評価とその利活用

相澤幹男（四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所・所長）：高知港海岸における三重防護による地震津波対策について

第二日(9/10)

磯部雅彦（高知工科大学・教授，学長）：高潮の基礎と防災の枠組み(共通セッション)

河野達仁（東北大学・教授）：海岸防災計画における経済学手法の適用と有用性

富田孝史（名古屋大学・教授）：タイトル未定

馬場俊孝（徳島大学・教授）：津波即時予測技術と今後の展望

- ・ 会場の無償キャンセルは 1 ヶ月前まで。
- ・ オンラインの開催の可能性も含め，6 月中旬までに開催の判断を検討。
→その後の検討により，一年間の延期を決定
(幹事委員会もスライドして水工学委員会のまま)

■Coastal Engineering Journal について（内山小委員長）

- ・ 2018 IF：2.016.
- ・ 2019 IF の暫定予測：2.42
- ・ 査読の効率化：査読期間 2 months → 4 weeks に変更。
- ・ 修正期間の短縮：Major revision: 4 weeks, Minor revision: 3 weeks, Conditional Accept: 2 weeks
- ・ 平均的には短縮の傾向。投稿から採択まで早いものだと 2 か月。
- ・ JEO を開設。技術的な対応（フォーマットのチェックなど）を出版社側が自動化。9 月ごろから施行予定。
- ・ Technical Notes と Survey Report の投稿規定を掲載。
- ・ 2019 年の投稿数は 108 編（過去 3 年：113, 108, 111）。2020 現在は 23 編。
- ・ Special Issue：CEJ 2020 September, Vol. 62, No. 3: Latin Tsunamis について，6 編掲載決定，さらに 5 編査読中。
- ・ Special Issue on Coastal Blue Carbon and Green Infrastructure
 - Guest Editor からの要望に伴い，タイトルとスケジュールを変更。2021 Issue 2 (June) を目指す。
 - 2019 年末までに 48 編の申し込みあり → Initial Screening を GE に依頼予定。通常号への再投稿を促す可能性
- ・ 2022 Special Issue はテーマ：台風災害・高潮災害，Guest Editor: 田島（東大）で調整中。
- ・ Coastal Engineering Journal Award について，選考プロセスを説明し了承され，結果として 2019 年は以下の論文が受賞することとなった。
Nguyen Xuan Tinh & Hitoshi Tanaka (2019) Study on boundary layer development and bottom shear stress beneath a tsunami, Coastal Engineering Journal, 61:4, 574-589, DOI: 10.1080/21664250.2019.1672127
- ・ JAMSTEC 中西賞について，日本海洋工学会の表彰規定を確認中（田島幹事長），6 月の委員会にて改めて提案。
 - 選考のプライオリティとして(1) CEJ Award 受賞者，(2) CEJ Award の著者が対象（日本人）でない場合，その選考の次点のもの，(3) 次点にも対象がない場合，CEJ 出

- 版論文のうち対象論文を CEJ 小委員会で全文審査。
- 過去の事例で 2011 年に Anawat Suppasri 先生が CEJ Award と中西賞を同時受賞しており、選考規定に関する CEJ 小委員会の見解：JAMSTEC 中西賞は「日本の海洋工学の発展に貢献した研究者を表彰する」という趣旨を鑑み、CEJ Award 対象論文でエディターの評価がもっとも高かった論文のうち、筆頭著者（あるいは責任著者）が日本国内組織に所属しており、主に土木学会海岸工学委員会で活動しているグループの研究論文を推薦する。内規として著者の国籍は問わない。
 - CEJ としては(1)を考えている。
 - ・ CEJ Citation Award についても選定プロセスが説明され、以下の論文が受賞することが報告された。
Hitoshi Gotoh & Abbas Khayyer (2018) On the state-of-the-art of particle methods for coastal and ocean engineering, Coastal Engineering Journal, 60:1, 79-103, DOI: 10.1080/21664250.2018.1436243
 - ・ 2 月に土木学会に印税（約 114 万）の振り込みがあった。次年度は 6 月に振り込むよう TF に依頼し了解を得ている。2019 年度は楯の作成に印税を活用した。2020 年度以降の有効な使途については引き続き検討する。

■小委員会について

- ・ 広報小委員会
 - 新 HP が 12 月から開設。ロゴも刷新。
 - 昨年 9～12 月に旧 HP で更新された内容は新 HP 上で反映されていない。必要なら要相談
- ・ 津波作用に関する研究レビューおよび活用研究小委員会
 - **【審議】30 万円程度の予算使用が申請**され、幹事会で承認された。ハッカソン開催の必要経費の一部として使用する。
 - 津波解析ハッカソンの小豆島での開催が難しい場合、テレビ会議での開催を検討している。費用は 20 万円台程度かかるため、その場合は上記の予算を使用させていただきたい。

■その他

- ・ ICCE2024 招致活動
 - 3 月 20 日にプロポーザルの締め切りがあり、提出
 - ICCE2020 が 2022 に延期の可能性があるため、ICCE2024 についても状況が大きく変わる可能性がある。
- ・ 委員会予算
 - 出張旅費が発生しないため、残予算が出る可能性。
 - APAC2021 関連（Web 整備）の外注に本年度のうちに使用することを検討。
- ・ APAC に関してメール審議により以下のことを決定
 - JSCE からの APAC の Council を 2 名から 3 名に変更
 - APAC のさらなる国際化を鑑み、3 番目の枠は JSCE との関係が深い非日本人を指名する。
 - 人選は執行部(+関係各位)に一任していただく
 - Thuyloi 大学(ベトナム)の Nguyen Viet さんが Council に
- ・ 2018 年 J-stage 上で公開されている特集号の論文に不備（ファイルが壊れている）があり、著者側から修正依頼。通常号 B 部門委員会の審議により、当該論文の差し替えを対応した。

以上